2021年度事業計画

公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を 促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業

103,978,911 円

内、公益目的事業共通費用 73,556,134 円 (給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業 12,061,480 円

(1) 小中高校の教師研修の実施				
事業名	「学びの探究とデザイン」プログラム	予算	465,180 円	
事業概要	情報活用型プロジェクト学習の理論に基づき、教科の真	単元をベー	スにプロジェクト学習	
	をデザインするワークショップを実施する。情報活用型	プロジェク	ト学習は、「探究する」	
	「社会とつながる」「ふりかえる」という3つの資質・	能力の育成	につながる学習経験を	
	提供することを目指している。また、「教科の1単元を	PBL (Proj	ect Based Learning) と	
	して展開する」「探究のプロセスや教科の学びと質を学習者目線で捉える」「探究を支える			
	情報活用能力を育てる」という3つの特徴がある(情報活用能力とは、さまざまな情報を			
	集め、集めた情報から意味を見出したり、あらたな表現を作り出していく力のこと。)			
対 象	小中高校の教育関係者 30人			
主な講師	稲垣 忠(東北学院大学教授)			
実施時期・回数	1回~2回			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	無料			

(2)「学校のソトでうでだめし」プロジェクト				
事業名	① テンダーさんの「その辺のもので生きる」オンライン講座 予算 7,263,300円			
	② 「考える」を試みるワークショップ			
事業概要	① 環境問題から社会の格差まで、問題の構造を見極めた上で解決に導くための技術や仕			
	組みを研究し、個々がアクセスしやすい形にして提案している小崎悠太氏(テンダー			
	さん)を講師に迎え、扱う素材や技術について探究しながら、同時に、その技術が環			
	境や社会の構造にどのように作用していくのかを知っていくためのワークショップ			
	を実施する。			
	② 多様性や社会構造の変化、国際関係の状況などに関連するトピックについてリサー			
	チ、分析し、その内容を、ポッドキャストなどの発信型のメディアをつかって表現す			
	る。リサーチ、分析、思考、判断、表現の各プロセスを通じて、社会の多様性、複層			
	性、流動性に意識が向けられるようにワークをデザインする。			
対 象	① 、② 中高生、プログラム趣旨に賛同する大人(大学生以上)			
主な講師	① 小崎悠太(テンダーさん)(ダイナミックラボ運営)			
	② 稲原教子(元アメリカン・スクール・イン・ジャパン教員)			
実施時期・回数	① 通年、合計 12 回			
	② 8月 計2回			
実施形態	① 、②オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	一部有料			

(3) インタラクティブ地球儀「Sphere」の地球講座				
事業名	地球の目線を育むセミナー	予算	1,520,000 円	
事業概要	「真の地球人を育てる地球儀」と銘打って開発されたデジタル地球儀 Sphere。 国立環境研究所、JAXA、ウェザーニューズなどの第一線の科学研究機関から提供される科学的知見や統計に基づくリアルなデータに基づき、海流・海水温・津波・大陸移動・			
	温暖化予測などの地球上で起こっている現象や、地球の体温で クかつリアルに映し出すことのできるデジタル地球儀を活用 ことを俯瞰的に見ながら学習するセミナーを実施する。			
対 象	国内外の小中高生、教育関係者など			
主な講師	竹村眞一(Sphere 開発者、京都造形芸術大学教授、NPO 法人 EI 代表)	LP (Earth	Literacy Project)	
実施時期・回数	4 回			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	無料			

(4) 学生を対象としたインタビュープロジェクト・ときめき取材記				
事業名	ときめき取材記プロジェクト	予算	492,000 円	
事業概要	学生に聞き書きという手法を通してひとりの人との対話をし、まとめたものをウェブで			
	発信してもらう。また、一連の作業から、自分とは異なる考え	えを知り、	相手を理解しよ	
	うとする姿勢を経てコミュニケーション力、発信力を育む機	&会とする	ことを目的とし	
	て、インタビューでの対話を深めるためのワークショップを実施する。			
対 象	大学生(ワークショップ対象者 大学、日本語学校などの教師	i)		
主な講師	塩野米松(作家)、ほか			
実施時期・回数	2 回			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	無料			

(5) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	2,321,000 円
事業概要	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓の7	とめの調査	査研究に関する費
	用等を計上する。		

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業 1,650,300 円

(1) 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営				
事業名	くりっくにっぽん	予算	205,300 円	
事業概要	2012年の日本語版リニューアル以来、日本発信のトピックとし	て人物像	を伝えてきた「く	
	りっくにっぽん」。掲載されている記事を活用することを主眼として、2015年から配信を			
	開始した CNN(Click Nippon News)では、2016 年度から始	まった「	ときめき取材記」	
	の記事も積極的に活用するなどしながら、主に英語圏の小中高校で日本語を教える教師			
	を対象に日英二言語でメールマガジンを配信してきた。			
	今年度は既存の記事の活用法を検討し、これまでの実施内容を	総括する	期間とする。	
対 象	国内外の日本語教育関係者(メールマガジン登録者数 800 名)			
主な講師など	メールマガジン執筆者 西村パーク葉子			
実施時期・回数	1 回			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	無料			

(2) ロシアの日本語教材制作				
事業名	交流を通じて学ぶ日本語のための教材開発調査	予算	135,000 円	
事業概要	2020年度に制作・完成をめざした初中等日本語教材の作成はコロナ禍により日露双方で			
	の作業に大きな支障をきたしたため保留となっていた。2021年	拝度は改 る	めて教材制作につ	
	ながる素材・ロシアの課題の整理などを調査し、2022 年度の第	完成をめる	ぎす。	
対 象	ロシアにおける日本語教育関係者			
主な講師など				
実施時期・回数	通年			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等				

(3) イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	1,310,000 円
事業概要	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓の	ための調査	査研究に関する費
	用等を計上する。		

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業 9,236,460 円

(1)日韓の中高校生交流プログラム				
事業名	互いのことばを学ぶ高校生交流プログラム	予算	1,665,860 円	
	ダンスダンスダンス online			
事業概要	今年度で10年を迎える本プログラム。これまでと同様に日韓ス	双方の高権	交生が親しんでい	
	る KPOP ダンス(カバーダンス)を活動の中心に据え、両国の	の高校生z	が共同でチーム毎	
	にダンス、チームを表したいデザインなどを共同で制作してい	· < 。 2020) 年度に引き続き	
	オンライン上で集い、発表する。			
対 象	日韓の高校生 18 名			
主な講師など	映像ディレクター、バーチャルユーチューバー、ダンサー、高	5校教師な	: Ł"	
実施時期・回数	夏休み期間(7月下旬から8月中旬)			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
	共催 財団法人秀林文化財団			
	助成 (公財)日韓文化交流基金(予定)			
参加費等	無料			

(2) 日露の教師・生徒交流プログラム				
事業名	日露交流プログラム	予算	1,213,400 円	
事業概要	交流を願う日露の学校が自主的に交流の手法を確立できるよ	う、実践っ	モデルを提案し、	
	オンラインセミナー、高校生協働プロジェクトを実施する。			
	1. オンライン交流のための教師セミナー			
	日露の学校間でのオンライン交流の実態、ニーズを把握し	、これから	らオンライン交流	
	を試みる学校で具体的に実践にうつしていくための情報共	共有の場と	こして、セミナー	
	を実施する。			
	2. 日露高校性協働プロジェクト -絵本をテーマにした動画作品制作-			
	日露間で翻訳されている絵本のストーリーを影絵、イラスト、人形や身体(手など)			
	を活用したアニメーションで表現し、協働で一つの作品を作り上げ発表する。			
	3. 2で採用した日露両言語の絵本を寄贈し、日本語・ロシア	語学習の	支援とする。	
対 象	日露高校教師 20 名、日露高校生 20 名			
主な講師など	水内貴英(美術家)、柏木俊彦(演劇人)、山泉貴弘(映像ディ	レクター	·)	
実施時期・回数	11月から12月末にかけての週末(教師向け1回、高校生向け	4~5 回海	車続プログラム)	
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
	助成 (一社) 尚友倶楽部 (予定) *図書寄贈への助成			
参加費等	無料			

(3) 多言語パフォーマンス合宿				
事業名	多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」 予算 4,417,200 円			
事業概要	多文化共生は世界的潮流といわれて久しいが、現在日本には総人口の約2.2%にあたるお			
	よそ 282 万人の外国人(2020 年現在、永住、中長期在留)が居住している。出身者の国			
	籍や地域の数は 190 を超え、その多様さに驚かされると同時に、家族構成などが複雑化			
	していることも見て取れる。そのような社会状況の中で、文化の多様性に対する配慮や、			
	お互いを尊重しあうという姿勢の醸成の一助とする試みとして、多重・複数なアイデンテ			
	ィティー、多文化共生社会への興味、などを持つ高校生が交流し、協働して創作活動をす			
	る機会を提供する。オンラインによる実施とし、身体表現、造形芸術、音楽表現などを組			
	み合わせた作品を制作し発表する。			
対 象	多様な文化や言語に興味がある、外国ルーツを持つなど様々な背景の高校生(高校生年			
	齢) のこども 20 名(各回とも)			
主な講師など	振付家、ダンサー、演出家、舞台音楽家、美術家、映像ディレクター、Vチューバーなど			
実施時期・回数	① 8月(夏プログラム)、②3月(春プログラム)			
実施形態	オンライン			
実施主体	主催			
参加費等	無料			

(4) ウの事業に	こ関するネットワーク構築と情報収集のための活動	予算	1,940,000 円
事業概要 職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		0	

エ. 広報事業 7,474,537 円

(1)事業報告書『CoReCa』の発行		予算	4,585,960 円
事業概要	2020年度事業について報告書『CoReCa』を制作し発行する。		

(2) デジタルな	媒体を使った広報	予算	2,248,577 円		
事業概要	TJF ウェブサイト、Facebook page などの媒体による情報発信に加え、昨今の IT 環境				
	変化を十分に配慮して、より効果的な TJF の広報戦略を研究し、実践する。				

(3) エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動			予算	640,000 円
事業概要	職員の研修、新規事業開持	石のための調査研究に関する費用等を	計上する	0